

平成 26 年度奨励共同研究 (特教プロジェクト)  
音楽交流による地域づくり～美唄市における試み～  
報告書 (抄)

平成 27 年 5 月 21 日

札幌国際大学短期大学部 研究代表者 河本 洋 一

## はじめに

1990年代の後半以降、芸術家を教育や福祉施設に派遣してワークショップなどの事業を行う〈従来型アウトリーチ〉は、普段、芸術に触れることが少ない地域や住民に対して体験の機会を提供することで、芸術の普及や地域の文化施設の役割を拡大させてきた。しかし、一般的には“官製興行化”エビデンス測定の不足、他の政策領域との関連付けの不足、人材を招くコストの増大等が問題点として指摘されている。<sup>1</sup>

本研究では、〈従来型アウトリーチ〉の課題を解消する〈新型アウトリーチ〉という概念の下、札幌国際大学シアターオーケストラの学生、札幌交響楽団定年退職者、地元のハイパーアマチュア（後述）らを有機的に関連づけ、①キャンプ（演奏者間の宿泊型技術交流）、②デリバリー（出前演奏会）、③ワークショップ（参加型演奏会）等の活動を実施する。そして、これらの活動のエビデンスの明確化のために、期待される効果について事前に想定し、参加者（演奏者、聴衆）に調査を実施すると共に、一定期間経過後に追跡調査を実施し、〈新型アウトリーチ〉という概念の下での音楽による地域づくりの有効性について検証する。

## 1. 研究の基本構想

### （1）全国的に展開されるようになった従来型アウトリーチ（派遣・提供型）の現状と課題

#### ①現状

1990年代の後半以降、芸術家を教育や福祉施設に派遣してワークショップなどの事業を行う〈従来型アウトリーチ〉は、普段、芸術に触れることが少ない地域や住民に対して体験の機会を提供することで、芸術の普及や地域の文化施設の役割を拡大させてきた。

#### ②課題

ア：官製興行化：〈民〉の事業を〈官〉が肩代わりしている例が散見される。

イ：エビデンス（効果）測定不足：効果測定が不十分で演奏会等が単なる興行で終わっている。

ウ：他の政策領域との関連不足：実施することのみが目的として語られてきた。

エ：人材を招くコストの増大：プロの演奏家の場合、謝礼や交通費等のコスト負担が大きい。

（財団法人地域創造 『文化・芸術による地域政策に関する調査研究報告書 平成22年3月』より）

### （2）ハイパーアマチュアを活用した〈新型アウトリーチ〉で課題を解決

#### ①ハイパーアマチュアの定義

本研究における造語。プロと一般住民の間に位置する、プロではないが高度な芸術性をもった人々を意味する。これらの人々は、活動することそのものに喜びを感じ、発表する場を必要としているが、活動することを生業とはしていない。

#### ②新型アウトリーチの定義

本研究における造語。コストの問題から〈民〉ではできない人材の繋がりや仕組みを構築する。

<sup>1</sup> 財団法人地域創造 『文化・芸術による地域政策に関する調査研究報告書』 2010年

なお、この仕組みの構築は次の五つの条件を満たしていることを基本とする。

ア：地域外の人材（札幌 OB、本学学生）による様々な活動がいわば〈触媒〉となって、地域住民の芸術文化活動を活性化させる。

イ：地域のハイパーアマチュアと一般住民を繋ぐことで、その地域で中心となって活躍するイニシエーター（地域を活性化させる人材）を育成する。

ウ：実施後の効果測定の項目や方法が予め設定されており、エビデンスの明確化の仕組みがある。

エ：提供だけでなく、提供を通してまちづくりの何に寄与できるかが具体的に想定されている。

オ：コスト削減とハイパーアマチュアの演奏機会の増大の二つの課題を一気に解消する場を設定する。

### 3. 新型アウトリーチの考え方に基づく社会実験

上記の条件ア～オを満たす以下の事業を札幌国際大学短期大学部が企画し、音楽の新型アウトリーチによる地域づくりの社会実験として、その有効性を検証する。社会実験のフィールドとしては、本学との連携協定がすでに結ばれている美唄市を選定し、先行実験を行う。美唄市は、本社会実験の効果測定の項目や方法の設定に助言すると共に、本社会実験にかかる市内の施設の利用において優遇措置を講じるなどの協力をする。

#### (1) 社会実験の実績

札幌国際大学シアターオーケストラの学生、札幌交響楽団定年退職者、地元のハイパーアマチュア（美唄尚栄高校生、美唄市民吹奏楽団員）によるオーケストラを組織し、①ワークショップ型演奏会（条件：ア、イ、ウ、エ、オ）、②体験型演奏会（条件：ア、ウ、エ、オ）を実施した。エビデンスの明確化のために、期待される効果について想定し、その都度参加者（演奏者、聴衆）にアンケート調査を実施すると共に、一定期間経過後に追跡調査を実施し、音楽による新型アウトリーチによる地域づくりの有効性について検証することを想定した。

#### ①SIU シアターオーケストラ及び札幌交響楽団 OB による美唄市内の吹奏楽団体との合同演奏【ワークショップ】

日 時：平成 26 年 11 月 8 日（土）13 時 00 分～15 時 00 分

場 所：東中学校

主 催：美唄サテライト・キャンパス運営協議会  
札幌国際大学短期大学部（担当：河本洋一 教授）

内 容：札幌交響楽団（首席奏者）OBの真弓先生や、美唄市民吹奏楽団指揮者の石井先生、美唄中学校の橋本先生のほか、河本教授が率いる札幌国際大学シアターオーケストラの学生、美唄市民吹奏楽団のパートリーダーを中心に演奏指導を交え、演奏練習をおこなった。

効 果：各団体とも初顔合わせにも関わらず、楽器演奏を通じて参加団体間の交流が深まり、合わせて各パートに分かれての演奏指導により、技術の向上も図られた。

参加者数：77 名 札幌国際大学シアターオーケストラの学生 7 名・河本教授・札幌交響楽団 OB（元トロンボーン首席奏者 真弓基教氏）1 名、美唄市民吹奏楽団 19

名、美唄聖華高校吹奏楽部 10 名、美唄中学校吹奏楽部 19 名、東中学校吹奏楽部 20 名

#### 【合同演奏】

美唄市民文化祭・音楽祭で『美唄サテライト・キャンパスwith札幌国際大学

◇日時 平成 26 年 11 月 9 日 (日) 9 時 30 分～16 時 40 分

◇時間 13 時 00 分～16 時 40 分 (音楽祭)、16 時 15 分～16 時 40 分 (出演時間)

◇場所 美唄市民会館「大ホール」

◇主催 美唄サテライト・キャンパス運営協議会  
札幌国際大学短期大学部 河本洋一 教授

◇内容

『美唄市民文化祭・音楽祭』(最終演者)に『美唄サテライト・キャンパスwith札幌国際大学』として出演。札幌国際大学シアターオーケストラの学生、河本教授、札幌交響楽団OBの真弓先生、美唄市民吹奏楽団、美唄聖華高校吹奏楽部、美唄中学校吹奏楽部、東中学校吹奏楽部の総勢 77 名により、「76 本のトロンボーン」「サンババアー」「アフリカンシンフォニー」を演奏した。

◇効果

本番当日の全体リハーサルで、初めての合同練習を行いました。前日の各パート練習も含め、楽器演奏を通じて参加団体間の交流や世代間の交流が深まるとともに、普段は行うことのない大人数での合同演奏により、吹奏楽の魅力が高めることができた。また、『美唄市民文化祭・音楽祭』に出演することにより、同音楽祭を盛大に盛り上げる内容の濃い出演で、市民等に音楽の魅力をより一層高めることができた。また、本学の学生にとっては、自分たちが主役ではなく「触媒」となって地域の音楽活動の活性化に貢献するという役割を体験したことは、社会に貢献する人材育成という観点から、極めて有益な教育効果をもたらした。

【出演者数】総勢 77 名 内訳：札幌国際大学シアターオーケストラの学生 7 名・河本教授・札幌交響楽団OB 1 名、美唄市民吹奏楽団 19 名、美唄聖華高校吹奏楽部 10 名、美唄中学校吹奏楽部 19 名、東中学校吹奏楽部 20 名  
来場者数：240 名

#### ②親子体験型ふれあいコンサート

◇日時・場所

1 日目 平成 27 年 3 月 9 日 (月) ①アカシア幼稚園 10:00 開演 (45 分間)

②美唄市児童館 15:00 開演 (1 時間)

2 日目 平成 27 年 3 月 10 日 (火) ③栄幼稚園 12:30 開演 (45 分間)

◇主催

美唄サテライト・キャンパス運営協議会

札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科 (河本洋一 教授・学生 9 名)

#### ◇内 容

札幌国際大学短期大学部幼児教育保育学科の学生による人気アニメソングや幼稚園等よく歌われている歌の音楽演奏と、簡単な楽器を使った子どもたちとの演奏を行う親子参加型のふれあいコンサートを開催する。

##### <曲目>

###### 【①アカシア幼稚園】

- |            |            |               |
|------------|------------|---------------|
| 1 春が来た (歌) | 2 思い出のアルバム | 3 おもちやのチャチャチャ |
| 4 演奏楽器の紹介  | 5 山の音楽家    | 6 Let it go   |
| 7 ようかい体操第一 | 8 さんぽ      |               |

###### 【②美唄市児童館／③栄幼稚園】

- |             |            |               |
|-------------|------------|---------------|
| 1 春が来た (歌)  | 2 思い出のアルバム | 3 さんぽ         |
| 4 演奏楽器の紹介   | 5 山の音楽家    | 6 おもちやのチャチャチャ |
| 7 Let it go | 8 ようかい体操第一 |               |

#### ◇効 果

園児や小学校低学年の児童に対し、本物の楽器を使った芸術鑑賞等の機会を創出することにより、音楽を愛する心を育て、豊かな情操を養う一助にすることができた。また、幼児教育を履修する学生たちに対し、卒業後の進路を視野に入れた生きた教育の場を提供することができた。また、本学の学生にとっても実習以外で子どもとふれあい、自らが役立つ体験を得る機会となり、導入教育としての可能性が示唆された。

#### ◇参加者数 (演奏者含む)

- |          |         |       |
|----------|---------|-------|
| ①アカシア幼稚園 | 園児・保護者等 | 約110名 |
| ②美唄市児童館  | 児童等     | 約50名  |
| ③栄幼稚園    | 園児・保護者等 | 約60名  |

#### ◇市長への表敬訪問

日時 平成27年3月10日(火) 10時30分～10時50分

場所 美唄市役所2階「市長応接室」

#### 4. 奨励共同研究(特別教育プロジェクト推進経費)による協働事業の今後の課題(総括)

美唄市との連携協定の中で実施された『音楽交流による地域づくり-美唄市における試み-』(以下、「音楽交流」)の研究による様々な事業は、本学にとっては地域貢献の一環として、美唄市としてはまちづくりの一環として二つの枠組みの中で一つの事業を実施している、いわば「融合事業」である。

「融合事業」とは、どちらか一方の事業に他者が連携・協力するという考え方ではなく、両者にとって利益があり、かつ両者が協働して取り組めるという状態を意味する。いわば互恵関係が成立している事業が、美唄サテライト・キャンパス協働事業と奨励共同研究(特別教育プロジェクト推進経費)による「音楽交流」である。

これらの事業が本学と美唄市にとって互恵関係を築きながら発展していくためには、以下の点が今後の課題となると思われる。

#### ◇経費負担の情報共有と見通しを持った互恵関係の確立

「音楽交流」は、美唄市と本学がそれぞれ予算を有し、その予算を互いに出し合う中で一つの事業が形成されている。ちなみに今年度は経費の殆どを本学が負担<sup>2</sup>しており、この経費が確保できなくなった場合は、現状の取り組みは不可能となる。

したがって、美唄市と本学の両者にとって、経費負担の情報を共有することはもとより、このような事業展開をどのような目標で継続あるいは終了していくのかといった計画性のある展開が必要となってくるとと思われる。

#### ◇効果測定の方法及び効果のエビデンス

美唄市は税金、本学も私学助成という公的資金で実施されているという性格上、美唄市民や学生にとってどのような効果があるか、また、その効果測定の方法やエビデンスは、市民や学生だけではなく、広く社会全体に発信されなければならないと考えられる。現在は、この点に関しては、ほぼ美唄市の担当者に依存しているというのが実状であるため、大学側としても研究教育機関としての地域貢献のポリシーを明確にし、適切な方法で効果測定及びその広報に務めていくことが必要であると考えられる。

#### ◇事業内容の教育課程への位置づけの検討

「音楽交流」は、多くの学生の参加があって成立している。これらの学生は、現在はサークル活動の一環として関わっているが、学生にとって自分たちが地域の担い手となり、地域を活性化するというフィールドワークとしても位置付けられる可能性がある。そして、「音楽交流」の事業に同行した美唄市の職員は、指導する教員と共に外部講師としての機能も果たしており、「講義」「演習」「実習」への導入教育あるいは、仕上げとしてのPBLとしての位置付けも考えられる。

なお、幼児教育保育学科では、新カリキュラム編成に際し、実習前の体験学習や卒業前の音楽・図工・体育のPBLとしての地域貢献を検討している。

---

<sup>2</sup> 本研究の決算及び美唄市との協働事業の経費負担割合については本報告書の本編に掲載。